

学校教育目標	『より高く、より広く、より深く、より強く』 ～自立・共生・錬成～
目指す学校像	保護者、地域から信頼される学校
重点目標	1 未知の問題に対応できる生徒の育成 2 生徒が主体となる学校づくりと誰一人取り残さない教育の実現 3 「つながる、いかす」をテーマにした地域・保護者との連携 4 生徒が安心して、安全に通える学校づくり 5 教職員がやりがい、働きがいのある学校づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価				年度評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○「年間授業日数 205 日以上」の規定が撤廃され、学びの質の向上が求められている。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、全国、県、市平均と比べ、学習の定着度は良好な結果である。 (課題) ○授業の様子ですぐに正答を知りたがる傾向が強く、学習したことを活用することや深く学ぼうとすることに課題がある。 ○一人一台端末を効果的に活用した授業改善。	学びのポイント「じ・し・ゃ・く」で学習の質的向上を目指す。 教科横断的な視点に立った授業改善に取り組み言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を高める。	○学びの指標を意識した授業を展開し、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を図る。 ○DX 推進教職員を中心に、ICT の効果的な活用について研修等で共有を図る。 ○複数教科で混合のグループで授業を見せ合い、教科横断的な視点に立った授業改善に取り組む。 ○外部講師を招聘し、「教科横断的な視点に立った授業改善」について、講義や指導をいただく。	○学びの指標の「主体的な学び」「探究的な学び」「ICT の効果的な活用」の項目の前期よりも 0.2 ポイント以上、上昇している。 ○生徒アンケートで「初めて見る問題に挑戦することが好きだ」の項目 70% 以上、「初めて見る問題を解決することが得意だ」の項目で 50%以上の肯定的な回答を得る。 ○教員一人 1 回以上の研究授業の実施と授業実践の蓄積	○学びの指標では、前期調査に比べ、「主体的な学び」「探究的な学び」が 0.02 「ICT の効果的な活用」0.2 の上昇となった。 ○生徒アンケートで「初めて見る問題に挑戦することが好きだ」の項目で 83% 「初めて見る問題を解決することが得意だ」の項目で 66%の肯定的な回答を得た。 ○教員一人 1 回以上の研究授業の実施と授業実践をまとめることができた。	B	○多少の上昇はあったものの目標数値 0.2 以上の上昇とはならなかった。「探究的な学び」については 3.2/4.0 ポイントであったが、本校の研究課題でもあるため次年度は上昇させたい。 ○次年度は本校の研究「未知の問題に対応できる生徒の育成～深い学びを通して～」の 3 年目となる。これまでの研究の成果をまとめ、教養だけでなく様々な課題に挑戦し、解決を図ることが好きな生徒を育成させたい。
2	<現状> ○学校内外で生徒が主体となって取り組む機会を増やしている。 ○週 1 回の教育相談部会や生徒指導部会で生徒理解等に組織的・計画的に取り組んでいる。 <課題> ○年間 15 日以上欠席生徒は 13.1%(R7.1)、「心と生活のアンケート」(R7.1 実施)における面談対象者は 7.5%が該当している。 ○生徒理解と個別的且つそれぞれの特性や環境に応じた柔軟で包括的な支援の実現。	生徒の主体的な活動機会の確保と自己肯定感や自己有用感の向上。 個別的・包括的な生徒理解と支援の実現と計画的な教育相談活動。	○学校内外機関と連携し、生徒が主体となる活動機会を増やす。 ○生徒の活動の見守りと適切な評価 ○保護者、地域に向けた生徒の活躍や頑張りを積極的に情報発信する。 ○あいさつ運動のさらなる推進 ○教職員の教育相談活動に関する知識・技術の向上のため、外部から専門性を有する講師を招き研修等を行う。 ○生徒の自己実現や援助希求能力の育成のため、他職種等と連携し道徳やいのちの支え合いの授業を実施する。	○「あなたにとって学校生活は楽しく充実していますか」の項目で 94 %以上 (R6 : 94%) ○教職員と生徒が笑顔で「おはよう」、「さようなら」が言える学校づくりを実現する。 ○教職員一人ひとりの教育相談に関する知識・技術の習得と向上を目的とした校内研修が実施できたか。 ○生徒の自己実現や援助希求能力の育成のための講義や授業が実施できたか。	○生徒アンケート「あなたにとって学校生活は楽しく充実していますか」の項目で 96%と昨年度の数値を上回った。 ○生徒アンケートで「自ら進んであいさつができる」と回答する生徒の割合も 95%と昨年度よりも上昇した。 ○4 月、8 月と教育相談主任より、生徒理解や支援の仕方等についての研修を行った。また、職員会議等の中で管理職より、生徒理解について話をした。 ○養護教諭やさわやか相談員を交えた授業は実施することができた。	A	○充実した学校生活を送れている生徒が多い一方で、4%の生徒が充実していないと回答していることから、4%の生徒に対するケアが今後必要である。 ○あいさつが学校外においてもできる生徒を育成していく必要がある。 ○生徒指導や教育相談等の対応においては年々複雑化している。事例研修等を通じて、教職員個々の対応力の向上と、組織的な対応について、実践できる力を今後も高めていく必要がある。
3	<現状> ○地域での活動やイベントが増え、中学生のかかわりを期待されることが多くなった。 ○地域での生徒の様子について、お褒めの言葉や問い合わせが増えてきている。 <課題> ○さいたま市学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思えますか。」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合 (79.0%)が、市の平均(79.3%)を下回っている。	地域(保護者)へ積極的な情報発信と学校での地域の子の可視化。 生徒の地域ボランティアやイベントへの積極的な参加。	○ホームページや学校だよりにより学校運営協議会の様子や地域での生徒の様子を掲載する。 ○保護者に学校行事や授業を参観できる機会を多くする。 ○地域の自治会等と連携を図り、地域で行われるさまざまなイベント等について積極的に参加を促していく。 ○地域と連携した学校の取組を充実させ、増やしていく。	○ホームページや学校だよりにより地域の様子や学校運営協議会の様子を掲載できたか。 ○保護者に学校行事や授業を参観できる機会を多くする。 ○地域での様々なイベントやボランティア活動に、生徒が参加できたか。 ○地域の人材や施設を活用し、学校における活動や授業等を充実させることができたか。	○学校だより等で学校運営協議会の情報を伝え、保護者等への認知に努めた。 ○学校行事や授業の様子など参観できる機会を昨年度よりも増やすことができた。 ○自治会長等と連携し、地域のボランティア活動やイベントの情報を生徒に積極的に発信した結果、参加人数が増えた。 ○土曜チャレンジスクールや部活動などで地域の人材を多く活かすことができた。	A	○学校運営委員会の情報をさらに保護者生徒、地域に伝えていく必要がある。 ○行事によっては保護者の人数等を制限せざる得ない状況から、工夫し、改善を図る必要がある。 ○自治会や民生委員の定期会等に管理職が今後も積極的に参加し、情報等を共有する。 ○地域の人材の活用について、さらに検討していく必要がある。
4	<現状> ○校舎や体育館など、老朽化が見られる。 ○今年度 2 月に体育館に空調設備が取り付けられる予定である。 ○防災に関して「引き渡し訓練」の見直しなどを行い、訓練を実施する。 <課題> ○修繕箇所等の迅速な対応 ○若手教職員の増加等のため、危機管理対応マニュアルに沿った研修等を通して、実践力を高める必要がある。	美しく安全で安心できる学校環境の整備。 危機管理対応マニュアルに沿った研修や訓練を通して、教職員や生徒の実践力を高める。	○安全主任、事務、教頭と連携し、毎月の安全点検の確実な実施と迅速な修繕箇所と環境美化の対応を行う。 ○管理職による定期的な巡回により学校の校舎内外の安全点検を行う。 ○危機管理対応マニュアルを全職員で確認する機会を定期的にもつ。 ○避難訓練等の実施後、教職員の振り返りだけでなく、安全主任や運営委員会委員と振り返りを実施し、必要に応じて危機管理対応マニュアルを見直す。	○学校評価教職員アンケートで①「修繕必要箇所について迅速に対応している」の項目で(そう思う A)を 40%以上にする。(R6 : 35%) ○研修や訓練等を通して、常に危機管理対応マニュアルを意識し、見直し等を行うことができたか。	○学校職員や学校補助員との対話を通して修繕や美化が必要な箇所を確認し、施設管理に取り組み、「修繕必要箇所について迅速に対応している」の項目で「そう思う A」の割合が 45%と上昇した。 ○避難訓練や研修等、計画通りに実施ができた。その取り組みを評価し、教職員で改善すべきことを整理し、危機管理対応マニュアルの見直しを行うことができた。また、2 学期末に安全主任を中心に実践的な避難訓練を行うことができた。	A	○予算との兼ね合いもあるが、修繕できていない箇所については、施設課とも連携し、計画的に行えるようする。また、施設等の安全面は全職員で危機意識を高め、常に確認していく。 ○引き続き、危機管理対応マニュアルを教職員が把握し、避難訓練等の実践や日常の中で気になったことを見直し、より安全に対応できるものにしていく必要がある。
5	○授業等での効果的な ICT 活用について、校内研修を重ねてきたことで、ICT を活用する教員が増えるなど、ICT スキル向上が見られる。 ○データの利活用を要とした「学び方改革」が示されている。 <課題> ○学校教育において、ICT を活用した学びを通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが求められている。 ○若手や教職員年数の短い教職員の人材育成と職場環境の向上が求められている。	ICT を活用した(データの利活用も含む)主体的対話的な深い学びを通じた授業改善 ○若手教員の人材育成と職場環境の向上	○ICT を活用した研修等を実施して、授業力向上を図る。 ○教育研究所の希望研修や他校の授業研究会、スタディサプリやミライシードのオンライン研修会等に参加して、授業力の向上を図る。 ○若手教員を対象に、市の教育行政施策等に関する学習会を実施する。 ○若手や教職員経験年数が短い職員を中心に管理職と定期的な面談を実施し、現在の状況の確認と今後の課題等について話し合う機会をつくる。	○ICT の活用にかかわる研修を年 5 回以上行う。 ○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場に自分の目標、ロールモデルとなる教職員はいますか？」の肯定的回答が 60%以上。(R6 は 56%) ○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場で業務について相談できる教職員はいますか？」の肯定的回答が 80%以上。(R6 は 76%)	○ICT の活用にかかわる研修を年 5 回以上行うことができた。 ○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場に自分の目標、ロールモデルとなる教職員はいますか？」の肯定的回答は 53%と昨年度を下回った。(R6 は 56%) ○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場で業務について相談できる教職員はいますか？」の肯定的回答が 93%以上と大きく向上した。(R6 は 76%)	B	○タブレット等の活用については、使用頻度を増やすということから学習の中で、どう活かすかを考えていく必要性を感じている。 ○職場での相談相手がいることは良いと感じるが、自分の目標やロールモデルとして捉えていないことについては課題が残る。教えてもらう、サポートしてもらうだけでなく、ベテラン教職員の姿から学びとる姿勢を伝えてきたい。

学校運営協議会による評価	実施日 令和 年 月 日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等	来年度、生徒用端末が iPad に代わり、より一層デジタル端末を活用した学習が増えて車も知れないが、デジタル端末はあくまでも手段であり、生徒の力を伸ばしていくために活用してほしい。また、アナログのよさについてもしっかりと理解し、デジタル端末の活用とアナログのバランスを考えながら授業を行い生徒の力を伸ばしてほしい。
	あいさつについて学校評価をみると 1 学年生徒や教職員の「不十分」の評価が比較的に高く、課題が残るのではないかと。あいさつは家庭での躰であるが、学校でも指導していかなければならない時代である。小学校や家庭・地域と「あいさつ」について共有し、取り組んでいく必要がある。
	地域での中学生ボランティアの機会や参加が増えており、地域も助かっている。小学校のチャレンジスクールも勝也宇してくれた。また、保護者への情報発信として、スクリレを導入することから、両項目の B 評価を A 評価に代えても良いのではないかと。
	予算の状況もあると思うが、生徒の安全にかかわる修繕等については迅速かつ確実に行ってほしい。また、学校のシンボルである時計台を何とか修繕してほしい。 避難所を開設する際には中学生の力が必要不可欠となる。地域の避難訓練等にも一人でも多くの生徒が参加してくれると地域としてもありがたい。
	教職員の力が高まれば、生徒に還元されていく。これからも学び続ける教師でいてもらいたい。 教職員も生徒と同様に人とかかわりの中で、地力をつけていってほしい。